

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏消費者物価(23年5月) —総合指数の伸び率が大幅に低下

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 総合指数、コアともに前年比伸び率は低下

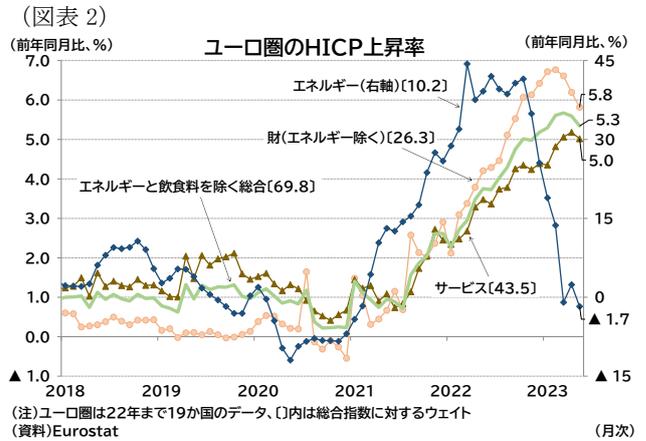
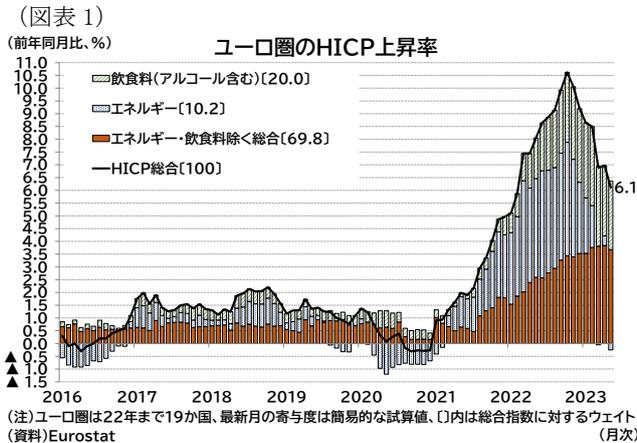
6月1日、欧州委員会統計局(Eurostat)は5月のユーロ圏のHICP(Harmonized Indices of Consumer Prices: EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数】

- ・前年同月比は6.1%、市場予想¹(6.3%)を下回り、前月(7.0%)から低下した(図表1)
- ・前月比は0.0%、予想(0.2%)を下回り、前月(0.6%)から減速した

【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は5.3%、予想(5.5%)を下回り、前月(5.6%)から低下した(図表2)
- ・前月比は0.2%、前月(1.0%)から減速した



2. 結果の詳細サービス物価へのインフレ圧力は根強い

23年5月のHICP上昇率³(前年同月比)は全体で6.1%となり、4月の7.0%から大幅に低下した。5月は「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」も5.3%となり、3月(5.7%)をピークに2か月連続で低下した。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料(アルコール含む)」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財

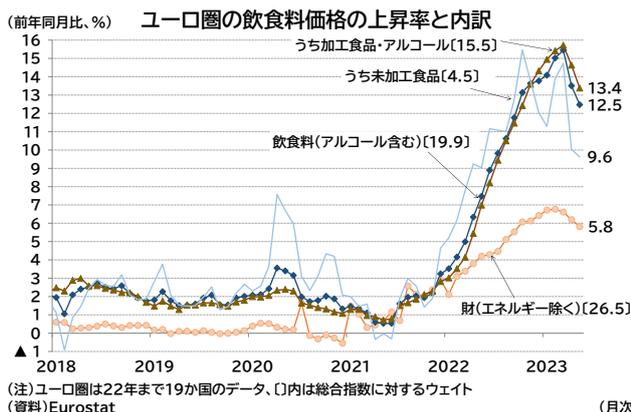
¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 日本の消費者物価指数のコアコアCPI、米国の消費者物価指数のコアCPIに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアCPIや米国のコアCPIとは若干定義が異なる。

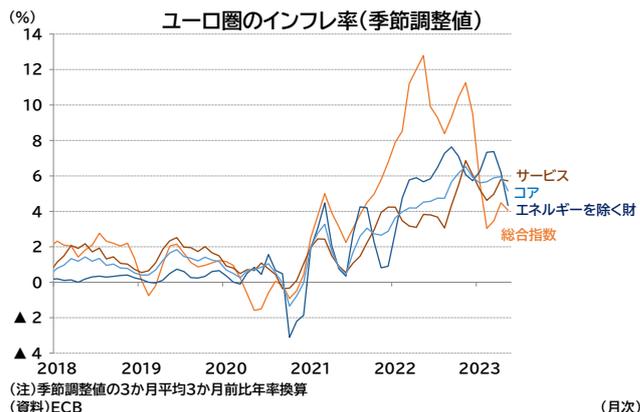
³ 23年からはユーロ圏20か国のデータ、22年までは19か国のデータ(以降も特に断りがない限り同様)。

（飲食料も除く）」が3月6.6%→4月6.2%→5月5.8%、「サービス」（エネルギーを除く）が3月5.1%→4月5.2%→5月5.0%となり、いずれも低下した。特に財は3か月連続の低下で、22年9月以来の5%台まで下がった。前年同月比寄与度は、「財」が1.43%ポイント程度、「サービス」が2.01%ポイント程度と見られる。コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で3月▲1.0%→4月2.4%→5月▲1.7%と再びマイナスとなり、前月比では▲2.2%と4か月連続のマイナスになった。エネルギーの前年同月比寄与度は▲0.25%ポイント程度（4月は0.38%ポイント）と見られる（前掲図表1）。

（図表3）



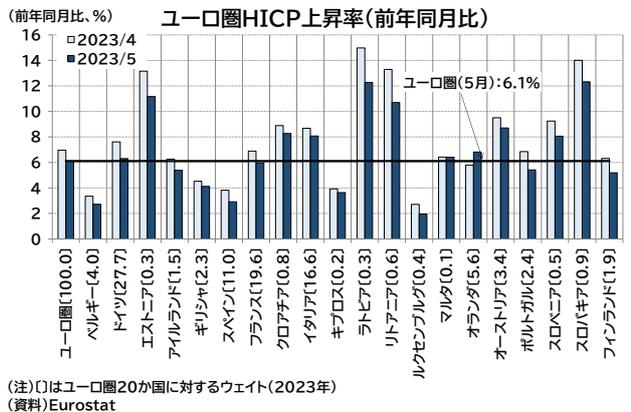
（図表4）



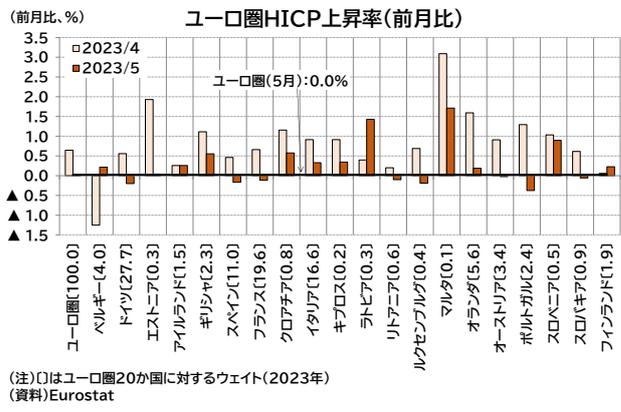
「飲食料（アルコール含む）」は、前年同月比で12.5%（4月13.5%）と2か月連続で大幅に低下した（図表3）。飲食料のうち加工食品の伸び率は13.4%（4月14.6%）、未加工食品は9.6%（4月10.0%）といずれも減速している。飲食料の前年同月比寄与度は2.68%ポイント程度（4月は2.75%ポイント）と見られる。

総じて見ると、5月はエネルギー以外の部分でも、飲食料や財の伸び率が大きく低下しており、コア物価のピークアウト感も強まっている。物価上昇の勢いをECBが公表する季節調整済系列で確認すると、3か月移動平均後の3か月前比年率で総合指数が4.1%、エネルギーを除く財が4.3%、サービスが5.7%、コアが5.2%となっており、財価格上昇の勢いが弱まっている（図表4）。一方で、サービス物価は高めの伸び率が続いており、インフレ圧力は依然強い状況にあると言える。

（図表5）



（図表6）



国別のHICP上昇率は、前年同月比で20か国中、上昇したのはオランダのみで残りの19か国は低下した（図表5）。前月比では12か国がプラスの伸び率で、8か国はマイナスの伸び率となった（図表6）。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。